

タイヤ交換作業者のみなさまへ

車輪脱落事故は

“死亡事故”につながる 可能性があります!



適正な

脱落防止には

タイヤ交換作業が必要 です!

1 ボルト、ナット、ホイールの清掃・点検

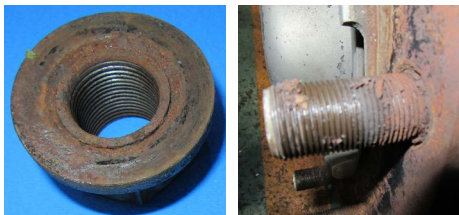
- ・清掃後、著しい錆や損傷(変形、亀裂、ネジ部潰れ、ボルト伸びなど)が無い点検する。
- ・特に新品から4年以上経過したボルト、ナットは入念に点検する。



2 著しい錆や損傷があるものは交換

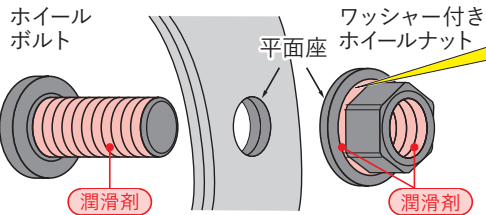
- ・自社で交換できない場合は交換の必要性を報告する。

(左) 著しい錆や汚れによりナットとワッシャーが固着
(右) 著しい錆や汚れが付着



3 潤滑剤(エンジンオイル等)を薄く塗布

- ・清掃及び潤滑剤を塗布しても、スムーズに回らないボルト、ナットは交換する。



ナットとワッシャーの間(摺動部)に潤滑剤を忘れずに塗布し、スムーズに回転するか点検する。

日本自動車工業会
提供資料より作成

4 適正トルクでの締め付け



5 タイヤ交換作業管理表に沿った作業及び報告

- ・国土交通省が示しているタイヤ交換作業管理表に沿った作業を実施し、依頼者へ報告する。(タイヤ交換作業管理表は裏面)
- ※依頼者へ渡した報告書類等は、作業店においても保管することを推奨します。

**不適正な作業は、
作業者の責任を
問われる可能性があります。**

一般社団法人 日本自動車タイヤ協会
全国タイヤ商工協同組合連合会
後援：国土交通省

車輪脱落事故に関する
情報はコチラ(国土交通省)



ドライバー及び運送事業者へ「法令で規定された増し締め及び日常点検時のボルト、ナットの緩みの点検」の呼びかけをお願いします。



運送事業者等への増し締めの呼びかけチラシはコチラ▲

タイヤ交換作業管理表

登録番号又は車番
作業実施者名

整備管理者確認欄

実施日 令和 年 月 日

実施箇所		確認・作業内容	結果 (実施✓・交換×)
清掃の実施	ハブ面	ディスク・ホイール取付面の錆や泥、ゴミなどを取り除く。	
		○ ハブのはめ合い部（インロー部）の錆やゴミ、泥などを取り除く。	
	ディスク・ホイール	ホイール・ナットの当たり面、ハブ取付面の錆やゴミ、泥などを取り除く。	
	ホイール・ボルト、ナット	ホイール・ボルト、ナットの錆やゴミ、泥などを取り除く。	
点検の実施	ハブ面	ディスク・ホイールの取付面に著しい摩耗や損傷がないかを確認	
	ディスク・ホイール	ボルト穴や飾り穴のまわりに亀裂や損傷がないかを確認	
		ホイール・ナットの当たり面に亀裂や損傷、摩耗がないかを確認	
		溶接部に亀裂や損傷がないかを確認	
		ハブへの取付面とディスク・ホイール合わせ面に摩耗や損傷がないかを確認	
	ホイール・ボルト、ナット	亀裂、損傷がないかを確認	
		ボルトの伸び、著しい錆がないかを確認	
		ねじ部につぶれや、やせ、かじりなどがいないかを確認	
○ ナットの座金（ワッシャ）が、スムーズに回転するかを確認 ※ ナットの座面部（球面座）に錆や傷、ゴミがないかを確認			
油脂類塗布の実施	ホイール・ボルト	ネジ部にエンジンオイルなどの潤滑剤を薄く塗布する。	
	ホイール・ナット	ネジ部にエンジンオイルなどの潤滑剤を薄く塗布する。	
		※ 座面部（球面座）にエンジンオイルなどの潤滑剤を薄く塗布する。 ○ 座金（ワッシャ）とナットとのすき間にエンジンオイルなどの潤滑剤を薄く塗布する。	
	ハブ	○ ハブのはめ合い部（インロー部）に、グリースを薄く塗布する。	
取付	ホイール・ナットの締め付け	■ タイヤ交換作業時の締め付けトルク値 △	N・m
保守	ホイール・ナットの増し締め	■ タイヤ交換後、50～100km走行後の増し締めを実施する。	

※ JIS方式が対象。

○ ISO方式が対象。ハブのディスク・ホイール取付面、ホイール合わせ面、ホイールと座金（ワッシャ）との当たり面には、塗装、エンジンオイルなどの油脂類の塗布を行わないよう注意すること。

■ 規定の締め付けトルク値は、車両の「タイヤ空気圧ラベル」の近くに表示されています。

△ 対角線順に2～3回に分けて締め付けること（最後の締め付けはトルクレンチで規定トルクで締め付ける）。

注 この内容に沿ったものであれば、自社の様式を使用してもよい。